



International Institute of Multi-Cultural Studies

特定非営利活動法人

## 国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol.17 No. 3 2016年 9月

### 鷺の宮卓話

#### 「共生を考える」

研究所理事長 太田敬雄

我が家の西の方向が小高くなっています。そこには木々が生え、草が茂る健康な田舎の自然がある…と私は思っていました。しかし、最近はその木々の茂る様子が見えなくなっています。蔦やつる草が木々を覆ってしまったからです。

先日、研究所理事の福田氏が我が家に来られ、帰り際にその姿を見て「先生、写真に撮っておかれると良いですよ。典型的な荒廃した山です。」と言われました。「荒廃した山ってどういうこと？」と聞く私に、福田氏は「原生林などと異なり、人と共生できない状態にある山です。」と言われるのです。「あそこにはもう人が立ち入ることもできないでしょう」とも言われました。

我が家の西には以前キーウィーの畑がありました。その後キーウィーはすっかり取り払われて更地にされました。そこに一本生えていた柚子の木を残して。今年はその柚子の木も蔓に覆われています。今年の実もつけてはいないのではないのでしょうか。このままで置けばあの木も荒廃した山の一部になることでしょう。

今年は、我が家の庭の手入れが出来なくて、足を踏み入れることが出来ないほどつる植物が蔓延し始めています。庭の柿の木にその蔓が絡んでいます。早く手入れをしなくてはと思いつつ、未だに何もできていません。このままですと数年で我が家も荒廃した山の一部になってしまいます。

「人と共生できない状態の山」、それはそのまま固定されてあるのではなく、その状態を放置しておくといくつと広がります。原生林はそのまま大丈夫なのに、なぜ荒廃した山になるのでしょうか？人が自分の都合で手を入れ、そして放置したことが原因でしょう。

今、研究所では多文化交流からさらに進めて多文化共生を考え、そこを目指して歩を進めるべき時が来ていると思います。その共生を考える上で、「荒廃した山」は大きな警告を発してくれます。もう原生林のような、単独で存在出来る文化はありません。お互いに影響を与え合っています。そして今、荒廃

は地球社会全体を脅かし始めています。そこに私たちが入り込むことも出来ないような壁を作り始めているのです。多文化間でお互いがお互いの文化を尊重し、ケアし合い助け合う事で荒廃を防がなくてはならないのですが、それは個々の人の活動としてのみ可能です。「多文化交流」はそのための活動です。お互いのあり方を尊重しつつ友達になることが相手の文化を、そして人間社会の全ての文化を健全なものとして存続させる唯一の方法なのです。そこから本当の共生が生まれます。自己の利益のためではなく、人類の明日のための共生を目指して進んでいきましょう。



←「荒廃した山」と言われた  
茂み。健康そうに見える緑の  
正体は・・・

### ご報告

お世話になります。副所長の太田琢雄です。

皆様にご報告なのですが、さる9月30日に『群馬 NPO 協議会』の会長職を拝命いたしました。この会は、県内 NPO や個人約 280 名が会員となり、県庁 NPO ボランティアサロン運営の委託を受けている任意団体です。

大変なことも多いですが、NPO 法人としての責務や強みを学ぶ良い機会だと感じています。

当研究所がいつまでも胸を張って社会的信用を得られる団体であり続けられるよう、この機を活かし精進したいと思います。

引き続き、皆様のご指導ご鞭撻をいただきたく、ここにご報告申し上げます。

## 多文化交流 in ぐんま 2016 夏

2016年8月10日(水)～14日(日)に安中市学習の森にて開催いたしました。4泊5日の日程をとり、8月11日～13日には2泊3日のホームステイプログラムも取り入れました。



### 「大きな一歩」



群馬県立女子大学3年 中島愛

多文化交流がなにかも何も知らずに飛び込んだ大学入学後すぐの5月から、気づけばもう3度目の夏を迎え、スタッフを務めるのも5回目となっていました。回数を重ねるたびに動けること、見えることがどんどん増えてきていることを実感し、この多文化でどれほど成長させてもらえたかわかりません。そして今回、わたしがスタッフとして参加し始めてからはまだやったことのなかったホームステイプログラムを、ついに組み込むことができました。正直思っていたより大変で、特にホームステイ担当のまつは神経を使うことが多かったと思います。それでも当日、参加者やホストファミリーのみなさんの出発するときは不安そうだった顔が、帰ってきたときには満足そうな笑顔であふれているのを見て、頑張ってよかった、大成功だったなど、スタッフみんなが心の底からそう感じることができました。私自身ホームステイしたくなるくらいまぶしい笑顔で、正直とっても羨ましかったです。

初めて参加した2014夏から2016冬までのスタッフは同じような顔ぶれでした。しかし今回、前スタッフはみな、就活や留学、サークルや部の活動で続けるのが厳しくなり、メンバーを一新しての2016夏がスタートしました。本当のことを言うと今までの仲間がみんな次のステージに進んでいるのに、臆病で動くことができなかった自分だけが取り残されてしまったような感じがしていました。しかし今回残れたことで、新しいみんなといろんなチャレンジをしていい意味で今までと全く違う多文化を作れました。自分もちゃんと、殻を破って新しい一歩踏み出すことができました。さたく、せな、こなみ、まつ、みんながいてくれて本当に良かった、本当にありがとう。全員が参加者として全員で作上げる多文化交流、今回、スタッフやプログラムだけでなく参加者のみんなも新しい顔ぶればかりで、とてもフレッシュな感覚でした。しかしいつどこであっても、多文化という独特の雰囲気この独特の居心地の良さは変わらず、やっぱり大好きだなと、改めて感じました。

これからわたしも多文化交流も、殻の中に閉じこもらず、いつしか大きな前進になる、そんな新しい一歩をどんどん踏み出していけたらいいなと思います。

### 「最高の経験！！最高の達成感！！」



高崎経済大学3年 佐藤拓哉

今回の多文化交流は、参加者としてではなく、初めてスタッフとして携わりました。多文化といえば充実したプログラムで非常に楽しいイベントというイメージでしたが、スタッフ側になってみると、正直これほど大変な仕事だとは思いませんでした。私情ですが、大学のゼミ活動や期末試験など、さまざまな課題が重なってしまい、なかなかスタッフとしての仕事を優先することができず、後回しにしてしまっていました。それでもかなりのストレスに感じてしまい、仕事はどんどん雑になってしまいました。そのせいで、周りにはかなり迷惑をかけてしまったし、申し訳なかったと思います。しかし、それでも辞めずに頑張れたのは自分よりも頑張っている代表の中島や、周りのサポートがあったからであり、本当に感謝しきれません。

いざ実際にイベントが始まってみると、自分がスタッフであることを忘れるくらい、楽しんでしまいました。現場や参加者の雰囲気に触れると、いい意味でスタッフとしての焦りや義務感が消え、参加者と一体となってプログラムを進められた気がします。しかし、それも入念な準備があったからこそであり、頑張った甲斐があったと思っています。

また、今回に限らずこの多文化交流というイベントを通しての出会い、絆は本当に一生ものです。この出会いから自分自身多くの刺激を受け、これからのさまざまな活動の原動力となっていくと思っています。この貴重な体験を提供できる多文化交流という場に、関わることができて光栄に思います。これからも何らかの形で、携わっていけたら幸いです。



### 「自分を大きくしてくれた、大切な経験」



群馬県立女子大学2年 室橋清奈

今回で多文化交流 in ぐんまへの参加は3回目になるの



ですが、参加回数を重ねるごとに多文化交流がますます楽しく感じ、大好きになっていく自分がいます。これほど何回参加しても飽きないのは、毎回新たな出会いがあったり、スタッフを含めて参加者同士、とても良い刺激を受けられたりと、参加してみて初めてわかる魅力がぎゅっと詰まっているからだと思います。そして今回もかけがえのない、大切な5日間になりました。たったの数時間でまるで前から友達だったかのような感じになり、皆がつどいの間に集まって話しているのを見ているとすごく温かいものを感じました。

そして今回は参加3回目にして、初めてスタッフを経験させていただきました。内容などをスタッフ皆で1から決め、それらが徐々に形になっていく面白さがある反面、参加者の時には知らなかった苦労や不安もあり、また違った視点からの多文化交流を経験することができました。また、スタッフになって1番驚いたことは当日でした。企画などをする前は、自分が皆を楽しませなきゃ、上手く進行しなきゃという思いでいっぱいだったのですが、実際に始めてみると逆にみんなが進めてくれている雰囲気、私はただ次に何するかを伝えるくらいでした。スタッフという存在はいるけれど、実際に多文化交流を作り上げるのはスタッフを含めた参加者全員なんだという意味がよくわかりました。

1つのイベントを作り上げる本当の面白さや素晴らしさ、人と人との交流の大切さを改めて学んだので、これからもこの学びを忘れずに生かしていきたいと思います。

## 「家族になれました♪」



群馬県立女子大学2年 石井小南

きっかけは、きみちゃん（多文化交流 in ぐんま 2016 代表）の「多文化に興味ない？」の一言だった。

それまで私は、多文化交流 in ぐんまというイベントの存在すら知らなかった。学校の憧れの先輩であるきみちゃんに誘われれば、「興味あります」と言いざるを得なかった私は、「母がフィリピン人なので、多文化にはもちろん興味あります」という理由で多文化スタッフを始めることとなった。

しかし、始めてみれば多文化には宿題が多く、毎週のように準備してこななければいけないものや、やっておかねばいけないことが、本番に近づくにつれ増えていった。私はその頃、バイトを掛け持ちしており、多文化ミーティングである月曜日以外は毎週バイトをしていた。そこに加えて、学校の試験が重なってくると、私は生きてきた中で一番忙しい時期を迎えたのだ。さらに、広報という仕事（私が主に担当した分野）は、エクセルが駆使できないと使い物にならないのだ。そして残酷なことに、私はエクセルが使えない。正直、パソコンを壊してやろうと思ってしまったくらい追い詰められていた。きみちゃんの「本番がくれば楽しいから」という言葉も信用できないでいた。

旅行というもの荷物の準備の時が一番楽しいと思う。しかし、5泊6日の多文化の荷造りは、それほど楽しいものではなかった。自分の持つ企画が成功するだろうか

という不安や、初めて見る人々と5泊6日も仲良くやっていけるだろうかという不安、もう、不安ばかりであった。しかしその不安は、参加者含めた全体の自己紹介の時に覚めてしまっていたと、今思い返せばわかる。スタッフであることを忘れてはいけないのだが、忘れてしまうほどに楽しかった。なにが楽しいかって、みんなが楽しそうにしている姿を見ることだった。さらに、スタッフ間でも、当日一気に距離が0になった感じがした。今回のテーマ、「家族になろうよ♪」がまさに叶ったのではないかと思う。

多文化の良さを伝えたい気持ちは山々なのだが、正直、これは多文化に参加しないとわからないものなんだろうと思う。会った瞬間に、留学生・日本人参加者・スタッフが一体になった時、「多文化ってすごい」と感じた。今回のことで、最高のイベントのスタッフやろうよ！という、きみちゃんの誘いに、理由にもならない理由を適当に言っただけで、ホイホイついて行った少し雑な自分を好きになれた。参加者のみんな、食事ボランティアのみなさん、そして、多文化交流 in ぐんま 2016 夏スタッフ、大好きです。ありがとう。



## 「広がっていく世界」



日下 浩樹

「多文化交流最高！！」そう強く感じた企画、そして出会いでした。

2008年。多文化交流に初めて参加し、自分の人生の方針や世界に大きな影響を受けて以来、多文化交流の虜となっていました。

それから8年。ほぼ毎回この多文化交流に参加させて頂いています。

毎回、プログラムや状況、スタッフ・食事ボランティアや参加者、マナパルのみんな、そしてその企画にスタッフが込める想いが異なり、いつもとても楽しく参加していました。

そして今回。いつもよりも長い5日間。2日間のホームステイ。

プログラムを聞いた時、とても楽しそう！素晴らしい会になりそう！と感じました。

ただ、同時に悩みました。

社会人の私にとって5日間参加というのはとても難しく、何よりホームステイが恐かったからです。

私は留学生では無く、日本人です。

そして、学生では無く社会人です。

日本人の社会人を日本でホームステイとして受け入れる

のは、受け入れて下さる御家族にかなり抵抗があるのではないかと。そう思ってしまいました。

しかし、スタッフの方々の想いに惹かれ、今回の参加を決めました。

大正解でした。今回はスタッフ、参加者共に知り合いの少ない少人数の回。その分塊が出来ずに交流もしやすく、新たな出会いを楽しむ事が出来ました。

また、嬉しい事に、別の場所で出会って多文化を紹介した留学生の方や、自分が貼ったポスターを見て来てくれた方、サークルの被っていない後輩等も参加しており、縁も感じました。

そして、やはりホームステイはとても印象に残りました。ご家族にお会いするまで、決意したとはいえ、恐さは消えませんでした。

しかしお会いすると、とても明るく受け入れて下さり、すぐに恐さは消え去っていました。

一緒にホームステイをしたスリランカの方とも、ホームステイ中には打ち解ける事が出来き、皆で遅くまで語り合ったりもしました。このホームステイで、私はまたいろいろと学ぶ事が出来ました。

他にも思いはありますが、まとまりがつかなくなるのでこの辺にしておきます。

最後に、

多文化に関わられた皆様に感謝します。

お陰で素晴らしい出会いを得る事が出来ました。

お陰でまた世界を広げる事が出来ました。

ありがとうございました。

「多文化交流最高！」

今後ずっと仲間として繋がっていきましょう！

て、ワイワイすることもしてきた。特に洋平先輩とのホームステイは、来日以来初めての体験でした。初めて日本人の家に入って、初めて日本人の家族とご飯と食べて、初めて日本人の家族と一緒に旅行を行いました。それぞれ、日本人と結婚してからしかできないことを体験しました、正直とても興奮しました。

ホームステイ先の有坂家族もホントに面白い家族だった。そして、まさか有坂さんは中国語を勉強していることを驚きました。その後、有坂さんも中国語の教室をやっていますことを知って、高崎経済大学の中国留学生の学友会との連携もできるかもしれません。これらのことを通じて、新しい友達を作れるだけではなくて、社会のことも少しできるとと思っています。

最後には、参加者の皆さんと一緒にお酒を飲んで、ワイワイして、今までできなかったことを体験できました。本当に嬉しかったです。

今回 staff さん達もお疲れ様でした。最初から最後まで全部準備して、実施して、大変だと思います。イベントというものはそんなに簡単なものだと思います。

今度もし時間がありましたら、また参加したいと思います！もっと違う国の友達を作りたい、喋りたいです！



## 「多文化交流 in ぐんま 2016 夏 感想」



リョウミンシン

私はリョウミンシンです。三年前日本に留学しに来ました。

留学生として、最初の日本語がうまく出来ず、日本人とのコミュニケーションが取らなかった。時々生活も難しかった。そして日本語を努力勉強して、上手になって、たくさん日本人の友達を作ると目標をしました。

今回の多文化交流 in 群馬 2016 夏に参加して、とても楽しかった。大学に入ってから、多文化が異なっている原因で、うまく日本人とのコミュニケーションが取らなかった。

いつも日本語が上手になれるとうまく友達を作れると思っているのに、やはり何かのきっかけがあった方が作りやすいと思います。ですから今回の多文化交流 in 群馬 2016 夏のおかげで、たくさんの友達を作りました。

日本人だけではなくて、韓国人や中国人やアメリカ人やバングラデシュ人などの人と仲良くなりまして、とても良かったと思います。

今回の多文化交流 in 群馬 2016 夏では、皆山を登ったり、ホームステイをしたり、餃子を作ったり、色んなことをしました。初対面で知らない人達と一緒に餃子を作って食べました。そしてまさか子供達と一緒に山を登っ

## 「ホストファミリーをお受けして」

安中市鷺宮在住 山村

今回のホストファミリーのお話を太田敬雄先生の奥様からいただいて「エッ!! また、できるの!!」と飛びあがるほどうれしかったことを覚えています。その日から、毎日、この日が来るのをワクワク、ソワソワしながら待っていました。

8月11日午後3時に学習の森に集合、小山美月ちゃんとジャン・ヒョヌ君とご対面。何だか照れくさくてきちんとあいさつできないままスタートしてしまったけれど、初めて会った気がしないのは、ふたりが素直でとてもいい子だったからでしょうね。

自宅では長女と7か月の孫がお出迎え、仕事を終えた次女と長女の夫も合流……花火をしてにぎやかな1日目となりました。

2日目(12日)は、車で伊香保方面へお出かけ。午前7時に朝食、8時出発。榛名神社ではご神水のおみくじ、榛名湖でのボート、昼食は古民家造りのお店で釜飯、”卯三郎こけし”でのストラップ作りでは二人の器用さにビックリ!! 世界で一つだけのステキなものができました。”地球屋”でのメロンパンアイスは4人で分け合い、伊香保温泉の石段街では、おしゃべりしながらお店を見たり射的をしたりと365段の階段もとても短く感じました。また、石段脇のベンチに腰かけ玉こんにやくをほおばり、久しぶりに家族で旅行に来たようでとても楽しく私たち夫婦も年甲斐もなくはしゃいでしまいました。



この日の締めくくりはお風呂……日帰り温泉での入浴、”あっ”という間に1日が過ぎてしまいました。

3日目(13日)は、4人で富岡のスーパーに買い出しです。この日の昼食はクレープ。お別れ会でのBBQもあり、昼食は少し控えめに調整です(笑)。かわいい娘の美月ちゃんと一緒に食材を選び、息子のヒヨヌ君がカートを押して荷物を持ってくれました。とても優しい子どもたちです。

こんなにも楽しく素敵な時間を持つことができとても幸せでした。

本当にありがとうございました。

わが家に来てくれた二人はもちろん、松原さんをはじめスタッフのみなさん、関わってくださったすべての方々に感謝いたします。

私たち家族にとって最高の夏休みとなりました。



## まなばる通信

### ◆夏の国際交流・第一弾◆

～さあ英語で交流だ♪～

『遠いアフリカの国ルワンダから群馬へようこそ!』

8月10日(水)、アフリカ・ルワンダから来日した大学生たち4名&日本ルワンダ学生会議の日本人学生たちとの交流イベントを実施しました♪場所はまなばる山名教室(山名八幡宮・ミコカフェキッズルーム)。

5月某日、日本ルワンダ学生会議の学生さんから交流のお誘いをいただいてから3ヶ月。ついにこの日がやってきました!!当日はルワンダ人大学生4人、学生会議からは早稲田・上智・東京女子・青山・同志社大学の日本人大学生9人を迎えての…

大・交・流・会!!

使用言語は、ルワンダの共通語でもある英語です。



はじめは緊張していた子どもたちも…集合15分後には、あっという間に仲良しに♪ルワンダ&学生会議の皆さんの明るい人柄のおかげですね。昼食後の交流会ではルワンダの踊りを教わったり、ルワンダの言語「キニアルワ

ンダ語」を教わりました。

とっても陽気で優しいルワンダ人のお兄さんお姉さんたちのおかげで、キッズたちも大興奮・大満足の日になりました。最後にはルワンダからのお土産もいただきました。すべてバナナの皮でできているという壁かざり。絵の意味も細部まで丁寧に教えてくれて…嬉しかったです。まなばるの宝物が増えました。



日本からは飛行機で10時間以上、時差も7時間ある遠い地、ルワンダ。使う言葉もキニアルワンダ語や英語で日本とは全く違う環境の国です。ですが、私たちはルワンダに住む彼らとも友だちになれるのです!

たった1日の小さな小さな集まりでしたが、参加した子どもたちの中に「平和」の種が蒔かれていて欲しい。そう願っています。

### 【日本ルワンダ学生会議】

<http://jp-rw.jimdo.com>

通称JRYC(Japan-Rwanda Youth corporation)。都内・早稲田大学に事務局をおくインカレ団体で、毎年春のルワンダ渡航、夏のルワンダ学生日本招致を通して『『偏見』を取り除き寛容な『人間同士』の関係作りがひいては平和な社会を構築する』という信念のもとに「相互理解」を追求し世界の共通課題に向き合うことを目指しています。

### ◆夏の国際交流・第二弾◆

まなばる2016夏の国際&世代間交流 第二弾として8月11日(木)に行われた『タブンカ 2016 夏』。今年のタブンカのメインは崇台山(そうだいさん・群馬百名山のひとつ)への山登り!

他にも…ジャンケン列車にお弁当づくり、国際クイズ大会ありの楽しさ満点の1日でした(^^)



## 「楽しかったハイキング」



南八幡小学校 5年 小林 藍月

八月十日に大学生とまなばるのみんなでハイキングに行きました。どんなことをするのかな～。楽しく行けるかな～。ととても不安でした。まずゲームをしたりお話をしたりととても楽しかったです。

次にハイキングへ行きました。山の中へ行きくもの巣や草がたくさんあり歩くのに一生懸命でした。だんだんなれてきて、大学生ともたくさん話ができた時間がたつのがとても早かったです。山頂に着き作ったごはんを食べて、とても空気がきれいな所で食べたのでとても美味しかったです。大学生のお姉さんお兄さんはとても優しく、いろいろな話をしてくれてまだまだ一緒にいたかったです。

ハイキングが終わり、ちょっとしたゲームも終わり、帰りの時間になりとても楽しい時間だったのでとてもさみしかったです。またこのような会があったらまた参加したいです。ありがとうございました！！



## 「楽しいハイキング」



磯部小学校 3年 村井田 碧生

八月十一日（木）山の日、いろいろな国の人と、ハイキングや、クイズ大会、お弁当作りなどをしました。わたしは、ハイキングが、一番楽しかったです。理由は、ハイキングで歩く時、ハアハアつかれてもおしゃべりをしたりして楽しく登ったり、ちょう上のお弁当や、木登りがおいしくて、おもしろかったからです。下山する時は、新しく出来たお友だちとかといっしょに、ちょっとこわい話をしたりしていました。もちろん、クイズ大会と、お弁当作りもとっても楽しかったです。みなさんはハイキングをしたことがありますか？わたしは、ようち園のお山ほいくい外、これがはじめてだったと思います。つかれましたが楽しかったです。ぜひ、き会があったら、やってみてください。きっと、少しつかれるけど、とっても楽しいと、思います。

## 第2回ぐんまカップ

日本語コンテストの募集始まりました！！



ぐんまカップの日本語コンテストの参加者募集が9月1日より開始されました！

たくさんの方が応援してくださったおかげで、目標資金を無事に達成することができ、今は日本語コンテストの開催に向けて企画を行っています。ぐんまカップスタッフ、インドネシアの現地スタッフや韓国の共催団体の方と一緒に企画を進めている中で、だんだんとコンテストの形が見えてきました。どんな学生が応募してくれるのかとても楽しみです^^

詳細日程

〈応募期間〉

9月1日(木)～10月10日(月)

〈結果発表〉

10月17日(月)

〈インドネシア本選〉

日時：2016年11月12日(土)13日(日)

場所：ブラヴィジャヤ大学(Universitas Brawijaya)

所在地：Veteran Street, Malang postal code 65145 East Java, Indonesia

協力：ブラヴィジャヤ大学

〈韓国本選〉

日時：2016年11月26日(土)27日(日)

場所：釜山外国語大学校トリニティ(TRINITY)ホール D116～D119 講義室

11月26日(土)：D116,117,118,119

11月27日(日)：D117,118,119

所在地：釜山広域市金井区南山洞 857-1

共催：(社)釜山韓日交流センター

釜山外国語大学校トリニティ(TRINITY)

## 臼田香津子さんの懇談会

「臼田香津子さんの懇談会に参加して」

国際比較文化研究所 研究所 理事

狩野真由美

7月23日まなばるXDにて臼田香津子さんの懇談会がありました。

臼田さんは新島学園女子短期大学の2期生で私と同期生ですが、9歳年上です。当時は日本航空(株)の客室乗



務員をされており、社会人入学生として短大に入学し、フランス語を専攻。臼田さんは、どの授業でも宿題と予習はパーフェクト！国内外を飛び回る華麗な仕事に就き、しかも優秀な学生でもある臼田さんは、田舎者丸出しの私には雲の上のような存在。でも距離を感じることなく、学生時代は臼田さんとたくさん喋っていました。物腰が柔らかく、とても優しい方だから、話しやすかったのです。

短大卒業から 30 年以上経ち、懇談会でお聞きした彼女の人生は壮絶でした。中学 1 年生から、働いていたお母さんに代わり、弁当や食事作り、買い物、掃除などの家事全般を任されたそうです。部活は陸上部。部活後に帰宅すると、限られた時間内で効率的に物事を進めて、家事と勉強をこなしてたそうです。短大での仕事と学業の両立も、多忙な日々だったでしょうが効率的に時間を使い、臼田さんは人一倍、いや二倍も三倍も努力を重ねていたのですね。

臼田さんの人生は病気と共にありました。腰痛は中学生から大人になるまでに何度も発症し、車椅子の生活になる可能性があると言われたそうです。腰痛での休職中に、車椅子でも移動できるようにと車の免許を取得。子どもを預ける場所不足に悩む友達の声を聞き、ベビーホテルを始めようと経理や保育の勉強もしました。そして不思議と腰痛が治り「新しいことを始めると前に進める！勉強ってすごい！」と思ったそうです。

20 代後半で難病の膠原病（こうげんびょう）を発症。臼田さんは 30 年以上も、この病気と向き合っています。発症後、結婚されましたが、業務続行は困難となり、17 年半勤務した会社を退職。その後、ご長男を出産。この時、臼田さんの意思を尊重して、様々な情報を集め、支えてくれた医師には深く感謝しているそうです。

無事に出産できたものの「自分はいつ死ぬかわからない」との思いが強いので、臼田さんはお子さんにいろいろなことを教えてきました。1 歳過ぎた頃には、お子さんは自分の名前の他に家族の名前や住所を言えたそうです。

そして、お子さんは目も手も離せないほど、元気に成長。臼田さんはお子さんと一緒に遊び、会話を楽しみ、健康な体に食生活は大切と、食事作りにも精を出します。「忙しくて大変なんて言ったらバチが当たる。元気な子を授かれて、ありがたいです」と育児の日々を振り返っていました。

膠原病が落ち着いたところ、9 歳になったお子さんと一緒にソフトボールの練習をしていた時、手の異変に気付く、即、検査へ。なんと手の骨に腫瘍があることがわかり、骨腫瘍を発症しました。「家事だけでは異変に気づかなかったので、子どもが元気だったおかげで骨腫瘍がわかりました。もし自分がどうにかなっても、子どもは小 3 だから何とかできるだろう」と思ったそうです。この時は手術をして落ち着きましたが、去年、再発してしまいました。今も「何とかできるだろう」の思いで、治療が続けられています。

息子さんが高校生の時、「好きなことをやってみて、ダメならダメでもいい」と決心し、家族の了解をもらって、陸上競技を再スタート。30 代から 90 代の選手がいるマスターズに参加し、初出場の大会で走り高跳びの県の記録を出しました。その後は関東大会で優勝、大会記録を出した東日本大会では優秀選手賞を受賞など、華々しく活躍されています。

「苦勞したから今がある。いろいろな壁を乗り越えさせてもらったから、ご褒美をもらえたのかな。周囲に迷惑をかけたくないし、息子の勇姿も見たいから無理はしません。」と臼田さん。息子さんはアメリカンフットボールの実業団チームの選手で、臼田さんはご夫婦で試合を観に行くのをとても楽しみにしています。

「自分は何がしたいのか、いつもそれを考えながら生きてきました。痛みは自分の気持ち次第で変わります。しんどい時でも好きなことは出来る、気持ちひとつで何でも出来ると思います」。長きに渡る闘病の日々に、言葉では言い尽くせないほどの辛い経験をしてきたにもかかわらず、下を向かず、前を向いて人生を歩いてきた臼田さん。ご家族や医師の支えも励みになっていると思います。苦勞があっても、病気になっても、人生は楽しめる、何事も気持ちひとつで出来るんだ、ということを臼田さんの体験を通して教えていただきました。私も近頃老いを感じ始めて、ここからは何事も控えめにする方が無難かなと、勝手に思っていました。失敗してもいい、もっと自分らしく人生を楽しんでいこうと決めました。

## もう一つの多文化交流

太田敬雄

9 月 16 日、高崎市 PTA 連合会の要請を受けて、『外からみたら 日本の子どもたちがみえてくる？』をテーマに開催された同連合会家庭教育委員会のセミナーに県内の留学生 5 名と共に参加してきました。参加した学生は群馬大学に交換留学生として来ているベラルーシの学生とハンガリーの大学生、それに前橋にあるおもてなし専門学校に留学しているインドネシアのイスラム系の学生とヒンズー系の学生、さらにネパール出身の学生の 5 名でした。

最初に留学生が順番に自分の国の教育制度、家庭で受けた教育などを語りました。そののち、セミナー参加者が五つのグループに分かれて学生たちとの懇談の時を持ちました。学生と現在小学校・中学校に通う子供のいる PTA のメンバーとの話し合いはどのグループの大いに盛り上がり充実したひと時だったようです。PTA 役員と留学生の双方とも楽しかったようで、重責を果たせたのかなと安堵しています。

現在、IIMS では主に学生たちの交流を「多文化交流」あるいは「ぐんまカップ」という形で実践していますが、私は世代を超えた交流も必要と考えておりました。ほんの数時間のセミナーではありましたが、その願いがある程度かなえられた事を高崎市 PTA 連合会に感謝しています。今後は研究所としても世代の枠を超えた交流も実現したいと思いつつ帰途につきました。



## 会員動向・会費・寄付

会費納入のお願い：6月以降、8月の多文化交流 in ぐんまを皮切りに活動を続けていますが、現在は「ぐんまかつぶ」、「多文化交流 in 釜山」「多文化交流 in マラン」とそれぞれスタッフが準備を続けています。さらには皆さまお気づきかと思いますが、ニューズレターを思い切ってリニューアルしました。IIMS はこれからも微力ながら世界を一つの平和な人間社会にするための努力を続けて参ります。今後も変わらず皆様にお支えいただければ幸いです。

会費は年額2千円です。 ご寄付もありがたく活用させて頂いております。特定の活動へのご寄付も可能です。同封の振込用紙でご送金下さい。必ず会費、寄付等のご送金の内容を明確にしてくださいますようお願いいたします。なお、会費を複数回お送りいただいた場合は翌年度の会費として頂戴しています。

### 会費・寄付・新入会員（2016年6月18日～9月30日）敬称略

<会費> 2016年度分以外の会費につきましてはカッコ内に年度を記載します。

小川美由紀、内田穂積（17）、小坂景子、吉田省史郎、福田英作、佐藤秀男（17）、前田武男、新沢誠治、柴山享、岡田一恵、伊藤優子、杉浦隆一（17）、

<寄付>

○一般寄附 栗野好映、梶山拓弥、鈴木諭香子、鬼頭孝子、吉田省史郎、萩原和子、村井田和夫、清水智子、山田美和子、木村暢、松本立家・光、柴山享、

○ぐんまカップ寄付 兼次宏枝

○ぐんまカップ協賛 （有）土屋木工所

### ニューズレターのリニューアルについて

長年、手元の印刷機でニューズレターを作成していました。近年は特に写真が増えているのですが、こちらの印刷機では白黒でしか印刷できないのが残念でした。最近の本印刷もかなり安価に出来るようになりましたので、今号から印刷は外注で全面カラーにすることにしました。

さらに、先号は編集を群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部3年の中島愛さんをお願いしましたが、今号から中島さんに正式に編集長としてその任に当たって貰う事にしました。取りあえずは今年度。もしも学業に差しさわりが無ければ来年度もお願いしたいと思っています。中島さんは1年の時から「多文化交流 in ぐんま」のスタッフとして活躍してくれていましたし、マランにも参加していますので、研究所の活動や理念については十分理解して編集に当たってくれています。どんな紙面になるのか、私はワクワクしながら待っています。皆様も新しい編集長にエールを送ってください。きっと「とと姉ちゃん」のように頑張ってくれることでしょう。

研究所長 太田敬雄

### 《編集後記》

今回ニューズレターをリニューアルすることになり、まだまだいろいろ手探りの状態での作成となりました。研究所の印刷機で刷るのとは違い、いろいろと考えなければならぬことがあるようです。今はまだ文章や写真を収めることがやっとですが、慣れてきたらせっかくのカラー印刷をもっと生かせるように工夫していきたいです。研究所の活動をより魅力的にみなさまにお届けできるよう精進します。

また、多文化交流 in 釜山（韓国）、in マラン（インドネシア）など海外多文化の開催に向けても準備を進めております。こちらでもぜひ応援していただけたらと思います。（中島）



←多文化交流 in 釜山 2015 冬より。  
みんなで寄せ書きをしたオリジナルTシャツを着ての集合写真

発行 特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3

電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393

研究所ホームページ：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>

メールアドレス：[npo\\_iims@yahoo.co.jp](mailto:npo_iims@yahoo.co.jp)

まなばる：<http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>

郵便振替口座番号：00510-1-61974

加入者名：国際比較文化研究所